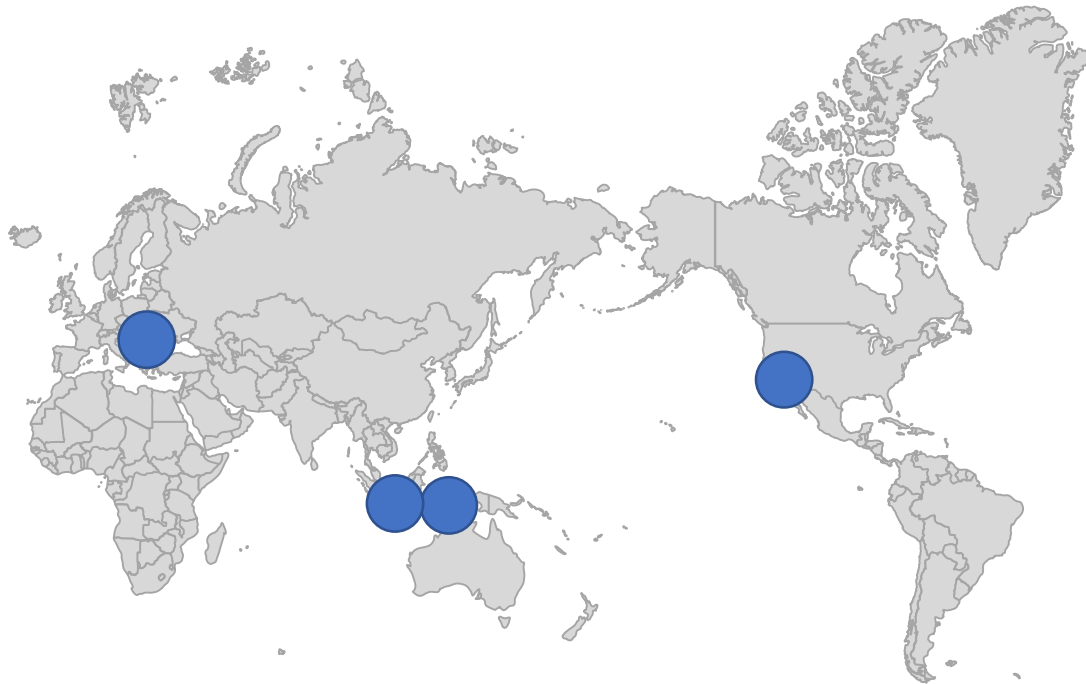


# ダブルディグリープログラム

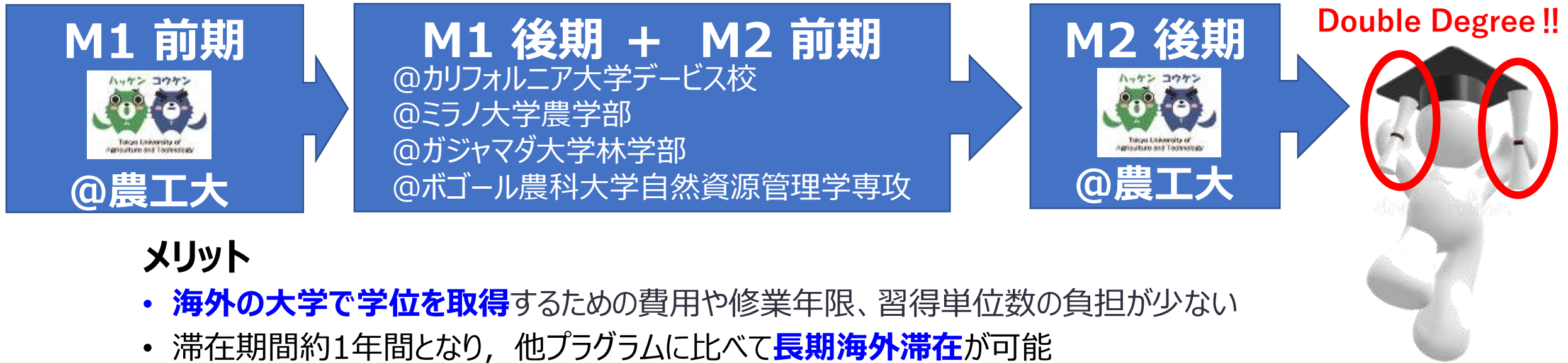
現在までの実績	
1) カリフォルニア大デービス校 (全学対応)	派遣1名 受け入れ無
2) ミラノ大農学部 (農学府のみ 栽培, 食品, 環境)	派遣1名 受け入れ4名
3) ガジャマダ大林学部 (農学府のみ 林学系推奨)	派遣3名 受け入れ無
4) IPB自然資源管理学専攻 (農学府のみ 環境農学系推奨)	派遣1名 受入1名



## 特徴

- ・上記海外協定校に1年間滞在して研究を行う
- ・本学学費は支払い, 海外大学学費は免除
- ・海外滞在にかかる必要経費は自己負担
- ・JASSO奨学金制度
- ・それぞれの大学から学位(修士号)を授与される

# ダブルディグリープログラムの実際



## メリット

- **海外の大学で学位を取得**するための費用や修業年限、習得単位数の負担が少ない
- 滞在期間約1年間となり、他プログラムに比べて**長期海外滞在**が可能
- 海外フィールド（インドネシア・イタリア）**現地での実際の実験，研究**が可能
- 国際的に活躍する研究者として**研究力・調整力**を身に着けるよい機会となる
- **国際共同研究**の立役者となることができる

## チェックポイント

- 修士課程入学以前に**事前の調整**が必要（計画的に研究を遂行するため）
- 複数の研究・調整を**同時進行**で行う必要があるため、通常の修士課程より**負荷が大きい**

問合せ：農学部国際環境農学専攻教授 加藤亮（taskkato@cc.tuat.ac.jp）